

第 1 0 回
第四期武蔵野市学校教育計画
策定審議会

令和 6 年 1 2 月 9 日
於 武蔵野商工会館 市民会議室

武蔵野市教育委員会

第10回第四期武蔵野市学校教育計画策定審議会

○令和6年12月9日（月曜日）

○出席委員（11名）

会 長 橋 本 創 一
委 員 相 原 雄 三
委 員 竹 山 正 弘
委 員 室 岡 良 浩
委 員 足 立 宜 親
委 員 真 柳 雄 飛

副 会 長 奈 須 正 裕
委 員 鈴 木 健 太 郎
委 員 安 島 知 江
委 員 古 田 順 子
委 員 櫻 井 乃 梨 子

○欠席委員（1名）

委 員 金 子 知 子

○事務局出席者

教育企画課長 牛 込 秀 明

指導課長 荒 井 友 香

教育支援課長
（教育相談支
援担当課長） 祐 成 将 晴

統括指導主事 高 丸 一 哉

○次 第

1. 開会

2. 議事

（1）第四期武蔵野市学校教育計画答申案の説明

3. 計画の答申

4. 各委員からの感想

5. 教育委員会挨拶

6. その他

（1）事務連絡

◎開会の辞

○牛込教育企画課長 開会に先立ちまして、資料の確認をいたします。本日の資料は次第と、答申、計画のかんたん版です。

それでは、会長、お願いいたします。

◎議事

○橋本会長 こんにちは。

これより武蔵野市学校教育計画策定審議会を始めさせていただきます。

今回がいよいよ最終回ということになります。本日も皆様に配付されている次第に沿って進めさせていただきます。

では、初めに議事ということで、議事（１）第四期武蔵野市学校教育計画答申案の説明に入りたいと思います。前回の審議を踏まえまして答申を一部修正していただいております。その部分を事務局から説明していただきたいと思います。

お願いします。

○高丸統括指導主事 それでは、私から前回の審議会等を踏まえまして修正した点を説明させていただきます。

まず、答申本体を１枚開いていただきまして体系図がございます。そちらに書き込みとして書かせていただいたものがございます。

まず、一番下ですが、方針Ⅰ、方針Ⅱ、方針Ⅲというところがそれぞれ関わり合っているということ、今までも話には何度も出ておりましたので、図としても分かるようにはなっておりますけれども、より分かりやすくするために、言葉でも「３つの方針はそれぞれに関わり合っています」という文言を入れさせていただきました。

また、実際に見る際の参考にしやすいように、各方針ごとに何ページから始まるかということで、方針Ⅰは15ページ、方針Ⅱは23ページ、方針Ⅲは35ページということでページ数も入れさせていただいております。

そのほか文言の細かな修正等もございまして、図もできるだけ分かりやすくしようということで、例えば19ページにスクールソーシャルワーカーの相談の流れというところ

がございます。こちら、ホームページに上がっていた文言もできるだけ見やすくしたんですが、印刷だと分かりにくくなっておりますけれども、デジタルで見ていただく際にはすっきり、くっきりと出ている形になっております。

同じように細かなところですが、次の21ページの「教育ダッシュボード」の取組というところも、データで見えていただければ見やすくなっております。また、東京都のホームページから、もう少し分かりやすい図がありましたので、若干ここの図は変更させていただいております。

そして、文言の変更というところで行きますと、27ページをご覧ください。前回の審議会の際に、このインクルーシブ教育システムの構築と書かせていただいた取組2のところですが、もう少し幅広いところが入っているのではないだろうかということで、日本語を母語にしないであるとか、医療的ケアというところも入っておりますので、ここは前回の審議会でもいただいた議論を踏まえまして、文言の中身を変えるのではなくて、タイトルのところを「より広いインクルーシブ教育システム」ということで、国のインクルーシブ教育システムよりさらに広い概念で我々としては包摂していこうというところを書かせていただいております。

タイトルは変えておりますけれども、本文は変えておりません。

あとは、こちらは追加という形になりますけれども、最後の43ページ、計画の進捗管理のところをご覧ください。前回は文言でこの計画をどのように進捗管理していくのかというところを書かせていただきましたけれども、なかなかイメージが湧きにくいというところもありますので、年間を通した取組のイメージということでPDCAサイクルを回すという形で書かせていただきました。

例年、教育委員会ではまず1月、2月頃に教育委員会の目標、また、毎年の教育委員会の基本方針の設定ということをしております。そしてDということで、市立小・中学校や関係機関と連携した取組の推進。

Cですが、教育委員会の定例会というのが毎月ございまして、その中でも6月、9月、12月、3月は業務状況報告というのがございます。こちらで今の進捗について定例教育委員会で報告をするとしておりますので、そこでCを行っていくということがございます。

また、年間通じてということで行きますと、教育委員会事務の点検評価というものも8月頃に行っておりますので、そちらもCの中に入れさせていただいております。

こういったことを含めて取組の改善、次年度に向けた検討をし、さらにまた次年度の教育目標や基本方針を設定していくという、このサイクルをこの5年間で回していくというところで、できるだけイメージを持っていただきやすいようにするためにこうした図を入れさせていただきました。

あとは、細かな文言の修正とさせていただいておりますけれども、大きな変更というところでいきますと以上でございます。

私からの説明は以上です。

○橋本会長 ありがとうございます。

今、事務局から資料の説明がありました。主には前回の審議を踏まえた修正になっていると思います。

ご意見とかご質問などございましたら、お願いいたします。

いかがでしょうか。

事前に委員の皆様にはメールでお送りしていると思います。今、事務局からご説明あったとおり、より詳しく鮮明にというところでの修正でしたので、本文で大きく変更というのはございません。

特にご意見がなければ、これをこの審議会として答申としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、議事（１）についてはここまでとして、この答申を確定したいと思います。ありがとうございます。

次に３番目、計画の答申に入りたいと思います。

○牛込教育企画課長 本日、教育委員会から教育長職務代理者が出席する予定でありましたが、急な体調不良により欠席させていただいております。

答申につきましては、その代理として教育委員会を代表して真柳教育部長が受け取ります。それでは橋本会長と真柳部長、こちらに出ていただいて答申をお願いいたします。

○橋本会長 昨年７月だったと思いますが、本市の教育委員会より諮問を受けまして、この第四期武蔵野市学校教育計画についてこれまで審議会でもいろいろ審議してまいりました。こちらが答申ということで渡したいと思います。

よろしくをお願いいたします。

○委員 ありがとうございます。

○橋本会長 よろしいですか。

では、4番目といたしまして、各委員からの感想ということに入りたいと思います。
1年5か月ではございましたが、策定に携わっていただきました委員の皆様から、これまでの審議の振り返りと、それから武蔵野市の未来の子どもたちへのメッセージということをお一人ずつ、一人1分程度と大体思っておりますが、長くお話ししてくださる方はどうぞしてくださって結構です。では順番に、よろしくお願いします。

○委員 1年半になりますが、このような機会をいただきまして、本当に学びになったなというところ、教育というところが学校だけじゃなくて本当に地域だったりとか、そのほか関係者の方もお店だったりとかで地域の話、今回よく出てきたと思うんですけども、そういったところですごく広くにわたっているんだなということも非常に感じました。

今回参加の動機になったのが、私の娘が3人いるんですけども、次女が一時不登校みたいになって、今フリースクールに通っているんですけども、そういった中で教育とか親とか地域みたいな観点で自分が全く知らないんだなということを感じたところがきっかけとして、ちゃんと勉強しようということで今回参加させていただきました。今日ここまで学んできたことをちょっと生かしていく形で関わり続けられたらいいなと思っております。

それに、今これだけ考えている武蔵野市の子どもたち結構幸せなんだなというところと、ちょっと安心感があるなというところがあるので、引き続き関わっていけたらと思います。

ありがとうございます。（拍手）

○橋本会長 続けてどうぞ。

○委員 1年5か月なんですね。本当に皆さんありがとうございます。

本当私自身も勉強の時間になっていたのも皆さんから大変いろんなことを学ばせていただきました。

個人的なお話でちょっとお話しさせていただきたいなと思ったんですけども、この申込み、応募したのがちょうど40歳のときで、これから自分がどういうふうに社会と関わっていこうかというのをすごく考えてた時期でもありました。

なので、私にとって非常に貴重な機会で、ここでお話しして皆さんからいろんなこと、ご意見も聞きながらいろんなことを勉強させていただいたのは大変本当に自分にとっては大切な時間になったなと思っています。

私は公募委員ということだったので、この時間の中では、とにかく間違っていたとしてもいろんな思っていることは皆さんのこの場に出そうということでいろいろ出させていただいていた、それを温かくというか、本当に否定することなく受け入れてくださって本当にありがとうございました。

取りまとめも大変だったと思うんですけども、なるべくいろんな意見をいろんな角度から言えたらとか、ITの会社に勤めているのでそういう観点からもお話しできたらということでもいろんなお話をさせていただいて、多分本当に大変な思いをされたんじゃないかなと思います。本当にありがとうございました。

こうして1年半、私も関わりながら、こうして一つの計画になったことは本当にうれしく思いますし、この計画の中で話してきたことは子どもたちがこれからこんなふうな姿になったらいいのになということを私自身も思ったことを伝えて、皆さんからもいろんな意見が出てきて、本当にいい時間を過ごせて、これからの武蔵野市の子どもたちの未来、楽しみだなと思います。

本当に皆さんありがとうございました。（拍手）

○委員 1年半、大変お世話になりましたありがとうございます。

改めて、開かれた学校づくり協議会で地域コーディネーターをしているので、自分としては子どもたちのことを見てきたつもりではあったんですが、やはりこの1年半いろんな皆様のお話ですとかお伺いして改めてやっぱり意識するワードですとか事柄ですとかが増えて、自分でまた実態をきちんと見る、本当に目の前の子どもたちの本当に一つの行動であるとか言葉であるとか、そういったものをまたきちんと見て、受け止めて、私の場合はこの後、境南小学校という学区になりますが、開かれた学校づくり協議会の委員の方も本当に様々な背景をお持ちの方が集まっていますので、それぞれの方がご自身の目を見たものを持ち寄って議論をしていく、ここでもそうだったと思うんですが、本当にその大切さを改めて実感した1年半でした。

なので、この後、境南小学校で同じように、多分、恐らくこれ議論はずっと続くんだろうというか、続けていかないといけないのかなと思いますが、子どもたち一人一人が私の場合はやっぱり境南小の子どもたちの顔が具体的に浮かぶので、その子たちが安心して自分の思いを遠慮なく発することができるように大人として責任を持って見守っていきたいなという思いを改めてした1年半でした。

皆様から本当にいろんなことを吸収させていただいて、皆様にご恩返しはできないん

ですが、きちんと境南小学校の子どもたちに向けて成果を出していければなと思っています。

ありがとうございます。（拍手）

○委員 私はPTA協議会を代表する者という立場で参加をさせていただきました。学校でもPTAの会長というのをやらせていただいて、そこでも子どもたちもそうですし、学校との関わりとか、地域・家庭がどういうふうに関わっていくかというところもかなり勉強させていただいた上でこの場に臨んだつもりではあったんですけども、やはりいろいろと学ぶことも多くありました。しかもここで学んだことって本当に、さっきおっしゃってましたけれども、実際場でやっぱりああこれかという形で身にしみて分かるような場面というのも結構ありましたし、本当にこんなに子どもですとか学校ですとか地域・家庭の関わりについて考え抜いたことはなかったという1年5か月だったかなと思います。

私は、もともとこの武蔵野市が地元で、PTAもやって初めて分かったんですけども、やっぱり武蔵野市って一くくりにしても結構東と中央と西でもかなり地域差というものもありますんで、この計画という柱もありつつ、それぞれ何かこの地域差がいい意味で出てくるとよりいいのかなと思いますし、私もそういったところにしっかり今後も関わっていけたらなと思っています。

これは主観かもしれないんですけども、いろんな行事もそうですし、地域の集まりとかもそうなんですけれども、結構子ども中心に考えると何か全部うまくいくような気がしていて、それをこの方法論も含めて計画に基づいて何かいろいろ実践していけたらいいのかなと思っています。

ありがとうございました。（拍手）

○委員 PTAを代表して参加させていただきました。

とにかく一番最初は耳で大変だよという言葉だけを伺って実は入ったんですね。ただ、入ってみると、本当にたくさんの方々が我が子が通う武蔵野市の小学校のためにいろんな計画をして、それを実践しようとしてくださっているということを感じさせていただけた1年半だなと思っています。

実際、息子が今年5年生なので、この1個前の期は現在進行形で体感しているはずなんですけど、なかなかそれを実感できなかったなとやはり思っている部分が保護者として多いので、このかんたん版を我が子、来年1年生が下にいるので、ここから4年間でど

うやって地域の方を含めてこれを実感していけるように、せっかくこの策定委員会というものに入れたからこそ、自分の我が子が通う小学校でどういうふうに校長先生であったりとか地域の皆様と関わって、かつこれを実現させていけるかというところにまで考えられたなという、今本当にこれをいただいてスタートラインに立ったなと改めて思う1年半の、ここから先の4年間みたいなところに今気持ちがあります。

本当に全く教育ということをつからないで子どもを教育現場に送り出していたんだなという保護者の一人としては、これから策定委員会ということだけでなく、武蔵野市の市民として小学校、中学校、たくさんの大学もありますし高校もあります。そういったところも含めて地域の方々とも一緒にいろんなことを実現して、子どもが笑顔であると多分周りも明るいまいたいなふうになっていけたらなということを感じておりますし、これからこれを実現していく保護者の一人でいけたらなと思っております。

1年半、全く分からない中で、語彙力も足りず、皆様にびっくりするような発言もしつつの中で本当にありがたい1年半を過ごさせていただいたので、この後4年間こちらを息子に体感してもらえそうな地域づくりに携われたらなと思っています。

ありがとうございました。（拍手）

○橋本会長 どうぞお願いします。

○牛込教育企画課長 欠席の委員からメッセージを預かっておりますので、代読をさせていただきます。

本日は最後の審議会だというのに欠席してしまい大変申し訳ありません。

審議会には、青少協からの代表として参加をさせていただいたのに、その立場からの意見、発言というのがあまり積極的にできず申し訳ありませんでした。

ただ、教育に関する様々な情報や皆さんの意見に触れ、教育計画という子どもたちの成長にとって根っことなり得る大切な計画づくりに少しでも携われたことは、この立場だったからこそだと思っています。

これまでの審議会での経験を今の自分を通して地域や子どもたちに還元し、役立てられることができるように、無駄にしないようにしていきたいと思います。

そして、思っていたよりもあっという間の審議会委員期間でした。大変お世話になりました。ありがとうございました。

以上でございます。（拍手）

○橋本会長 では、お願いします。

○委員 私は学識経験者という立場で、この策定委員会に参加させていただきました。学校現場を知って、教育行政も知ってという立場でいたわけですがけれども、本当に会長や副会長、そして皆さん方から様々な意見を聞くたびに、そういえばこういうことって大事だなとか、こういうことも本当は本来はやっていかなきゃいけないのに、もしかすると忘れていたなとか、いろいろ意味で刺激が多い学びのある場でした。

また、特に事務局の方々が、中間まとめをはじめ、意見聴取の場をすごく丁寧に行っていたことに感動しました。ICTを使ったり、またはもちろん市民説明会があったり、いろんな場で市民の方たちのエネルギーを吸収しようとして、そしてそこに多くの方たちが声を寄せている、そういうある意味、市民力の高さは、エネルギーになって次への一歩になるんだなということをもすごく感じた策定委員会でした。

そういった意味で、これから武蔵野市の子どもたちには、自分の良さとか可能性を発揮しながら学び続けていく、自立して生きていく、そんなたくましい子どもになってほしいなと切に思います。

子どもにとっては自分のいいところとか可能性ってなかなかつかむことができないからこそかもしれないですが、私たち大人が一人一人を価値づけてあげたり、意味づけてあげたりして、あなたのいいところはこういうところなんだよ、だから頑張っていこうねと、そういうメッセージを送ることができるような、教育計画ができたのではないのかなと思っています。

ぜひ、その自分の良さや可能性を果てしなく発揮できる武蔵野の子を、学校生活の中で生き生きと学んでいる姿からまた感じて応援してあげたいなと思っています。

本当にありがとうございました。（拍手）

○委員 今日までありがとうございました。

この策定委員として関わらせていただいて、様々なお立場の方とこれから学校がどういうふうにしていけばいいのかということをお話しできた、お伺いできたというのはとても貴重だったなと思っています。

何しろ来年度から学校でやっていく計画をどういう経緯で、どういう思い、熱量で決めてきたかというのを目の当たりにして来年度のことを考えられるというのはとても貴重だしありがたい経験ができたんだなと正直なところ思っています。

これは個人的なことなんですけれども、今回この策定委員会に入らせていただいて、他地区とか他県の計画ってどうなっているんだろうということをすごく気にするように

なって、見るようになったというのは個人的な変化だし、うまく捉えると成長なのかな
と思っているところです。

それと比較して、武蔵野市で本校で何をしていくかという視点で見れるようになった
というのは個人的な大きな成果だなと思っています。それも含めて、ありがとうございました。

特に今回こうやってお話を何度もさせていただくのって、武蔵野市が来年から本格的
にやる開かれた学校づくり協議会のバージョンアップのやり方にもすごく僕としては生
かせるなというところがたくさんあります。皆さんのご意見をどうお伺いして僕たちの
思いも出してつくり上げていくかというのは、来年度からの開かれた学校づくり協議会
にとっても生かせるものが多いなと思うのもすごく大きな得たものになりました。

本校は来年度から第五中学校に行くんですね。中学生と同居するとか、仮設校舎で過
ごすとか、そもそも学区域と離れたところで過ごすとかという大変なイメージをぱっと
すると持つんですけれども、この方針に当てはめると、そもそも基盤に中学生がいると
いうありがたい状況だったりとか、自信と意欲を育むお手本がいるとか、多様性って、
学区域を離れたということは地域が広がるということなので、より地域の人と関わるチ
ャンスができるとか、今回この経験をさせていただいたことでプラスに考えることがで
きるようになってきたというのも個人的には大きな成果だったなと思っています。

あとは、いただいたご意見とか、このできた答申をどう次年度以降の計画にしてい
くかは僕が頑張らなきゃいけないことだなと肝に銘じて今日は終わりたいと思います。

本当にありがとうございました。（拍手）

○委員 本当にこの委員会に参加させていただきまして、貴重な時間を過ごせたなと思
います。

いろんな方からいろんな話を聞く中で、自分自身振り返って再確認、再点検、それを
毎回毎回振り返らせていただきました。

そういった話合いの中で、今日の社会情勢とか国の動向、都の方向性、そういうこと
も確認できましたし、それを基にして武蔵野市がどういうふうな未来の子どもたちをつ
くっていくのか、そういうところを具体的に具現化するための話合いができたというこ
とはすごく貴重な時間になったと思っています。

今この答申にもありますように、3つの方針と、それから6つの施策で31の取組にな
りますけれども、これをどういうふうに進めていくか、学校の指針になりますので、ど

ういうふうにそれを進めていくかというところがやっぱり現場の校長として大事な立ち位置になると思っています。

教職員、それから保護者の方、地域の方はやっぱり一体となってこの答申を基に同じベクトルで物事を考えていく。基本は子どもたちにとって何が大事なのか、そこをよく熟議した上で進めていくことが大事だと思っています。

結びになりますけれども、こういう機会をいただきまして本当に勉強になりましたし、明日からまた来年からも含めて頑張らなくちゃいけないなと思います。本当にありがとうございました。（拍手）

○橋本会長 お願いします。

○奈須副会長 本当に、今回はいい機会をいただいてありがたかったかなと思っています。

行政単位というと、国があつて都道府県があつて市区町村があつてと、こうなっているんですけども、この国は何でも国でやり過ぎているという話がいつもあります。しかもこの国は大きい国で、1億を超える先進国ってないですよ。西ヨーロッパで一番大きいのはドイツで、人口は8,000万ぐらいです。イギリス、フランスは6,000万人台です。教育で話題になってお手本にしようという国、例えばフィンランドとかエストニアとかベルギーとかですけれども、エストニアって人口が130万人なんです。130万人って日本の県でいうと愛媛県とか山口県の規模です。エストニアがすごい教育をしていると言われるんですが、愛媛県や山口県の規模なら、それはできるよと思うんですね。ハンドリングがいいんですよ。フィンランドは550万人ですけれども、これは兵庫県の規模ですから、それはできるだろうと思うんですよ。ベルギーは大きいけれども、1,170万人って東京都より小さいですよ。ニュージーランドは500万人ですから、フィンランドと同じぐらいですよ。

何が言いたいかというと、もっと地方分権で教育政策というのはやっていかなきゃいけないということです。アメリカなんかはみんな州ですよ、原則。連邦政府が決めることなんか本当にほとんどなくて、みんな州なんです。この国もそうしたほうがいいとずっと思っています。箸の上げ下ろしまで国で決めるという、1億の国でそれはうまくいくはずがないとずっと思っていて、そんな方向にどんどん来ているんだと思うんですね。

その中で、例えば名古屋市なんかは割と大胆な施策をここのところ打ち出しているし、広島県もかなり踏み込んだ改革を進めています。石川県の加賀市は本当に小さい市なん

だけれども、このところすごく目覚ましい成果を上げています。むしろ県とか、もっと言うと小さな市町村だと本当に短期で大胆な動きをして着実に成果を上げられるというのがこのところ出てきています。

そういう意味で言うと、武蔵野市は以前からいろんな特質のある、いい意味で独自の風土を市民の皆さんが誇りに思っただけで頑張ってみえているというところがあって、やっぱり、あまり周りを見ないで独自にうちはこういう教育をやるんだということで突っ走ったほうがいいと思うんですね。

埼玉県の戸田市がこのところ突っ走って話題になっていますけれども、悪いことは一つも起きないんですよ。いいことしか起きない。武蔵野も、これまでもいろんな独自なことをやって随分成果上げていますよ。全国的に一番知られているのはセカンドスクールだけれども、それだけじゃなくて、どんどんまたやっていかれるといいなと思っています。三鷹もいろいろ今やろうとしているし、このあたりすごく面白いと思うんですね。

むしろ最近の動きとしては、そういう市区町村や都道府県が打ち出した独自の施策、場合によってはファーストペンギン的な動きというのを他県とか他市が追従したり、それを後に連邦政府が制度に組み入れたり、助成金の制度をつくったりということがすごく多いんですね。これはとてもいいことだと思っていて、武蔵野市はそんな大きな自治体じゃないですけれども、武蔵野市が動き出すことが周辺の市町にも影響して、ある意味のこの辺の広域の一つの特徴ある動きが出てくると、東京の23区とちょっと違った特質とか風合いを持っているので、面白い動きが出るんじゃないかななんて期待をしています。

そう考えたときに、今回の答申案というのはバランスが良くて穏当ではあるけれども、筋がしっかりしていると思うんですね。とても筋がしっかりしている。なので、多いんだけど、全部がつながって一貫しているものになっている気がして、これは広島とか名古屋もそうです。やっぱりそうじゃないと実際動かない。

今後、今校長先生おっしゃってくださったように、これが具体的な学校とかあるいは地域の動きとして進んでいって、これまでも面白かったんですけど、これまで以上にその延長線上にいい動きが出ることを期待をしております。

本当にいい機会をいただきまして、ありがとうございます。（拍手）

○橋本会長 最後に私から感想ということなんですけれども、私は実は第二期、第三期も

委員をさせていただきまして、そのときは実は専門が特別支援教育とか生徒指導、教育相談ですから、何と言いますか、学校であまりうまくやれてなかったり、もう少し学校全体でそういう一部の子どもたちに関してもいろんなサポートを取り組んでもらいたいなということが専門で研究してきましたので、今までごく一部のことや委員として携わってきました。

武蔵野市とのお付き合いが長かったものですから、今回会長というのをさせていただいてきましたが、委員の皆様のご協力で、本当に今副会長がおっしゃったとおり、幅広くいろんな分野から多角的にいろいろと出し合えて良かったなと思っています。

第二期、第三期と比べても、実は非常にバージョンアップされています。教育委員会や市役所でつくっていただく文章というと、どうしても文章がわーっと長くなって、一般の人からするとあまり何か読みたくないなというのなんです、今回すごくビジュアルとかデザインを、それから子どもたちでも手に取って見れるようにという工夫がされていて良かったなと思います。

もちろん、まだまだ不十分なところとか限界はあるんですけども、そういう意味では、すごく武蔵野市の教育というのは本当に成長し続けているんだなと感じています。

教育はまさに時代とか社会を反映してきています。私は今日来る前に第二期とか第三期のときのメモとかそういったものをちょっと見ていましたけれども、やはり書いてあることは全く昔ながらのことですから、そんなことが出ていたんだなというようなことで、今回は本当にそういう意味では全く違った視点でいろいろと作成いただきました。

どうしても私なんかは大学の教員ですので、国や都の話をどうしてもするわけなんですけれども、実際はやっぱりこの学校教育計画で討論されたように、本市の歴史とか子どもたちの積み重ね、学校教育の在り方というか、今までやられてきた実践というのが積み重ねとか歴史なんかとすり合わせていかなくちゃいけないというところがあって、そういうことというのは実際、実は我々大学の教員ってそんなにいつもいつも細かくやっているわけではないんですね。だから、そういう意味では、すごく具体的なことがこうやって討論できたというのは非常に良かったなと思っています。

それから、毎回実は傍聴の方もたくさんいらっしゃってご質問、ご意見をいただきました。事務局でまとめていただいて、私は毎回目を通していただいて、もっともだなとか、やはりそういう視点も話し合っていかなくちゃいけなかったんだなというのはありました。

ただ、やはりこの学校教育計画でどこまで網羅すべきかとなるとなかなか、もっとももっと分厚くなって誰も読んでくれないようなものになっても困りますので、実は精選していったというところがありますので、本当はいろいろと一つ一つお答えしたりとか議論すべきことなんかもあったなと思います。

今回パブリックコメントの取り方を事務局ですごく工夫していただきました。あまり集まってくれなかったから事務局で何度も声けして、来てください、書いてくださいというのを散々やっていただいたりとか、あと、子ども向けワークショップについても、これはやっぱり武蔵野市が今、子どもを主人公にして、子どもたちが自ら発信してとか考えて討論してというようなことをやっていこうということで、今回のこの学校教育計画にもそれを反映したいという意気込みとしていろいろ取り組んでくださったのはとても良かったなと思います。

ですから、傍聴の方からいただいたご意見や、パブリックコメントや子どもたちが書いていたことなんかも、実はこの学校教育計画の中には触れられてないものもたくさんあります。

実はこの教育計画って、こういうことをやりましょうねという話であって、実際に実践や、もちろん校舎の建て替えとかも今後進みますし、施設のこともそうなんですけれども、それは実際は具体的な策については教育委員会の担当部署で実はこれから考えていっていただかなくちゃいけないことですので、実際これ5年間の計画ではありますが、今の時代、実は3年ぐらいたつとこの計画ちょっと駄目なんじゃないということもある部分出てくる可能性も十分あるわけですね。

だから、そのあたりはまた教育委員会の部署の方々、事務局の方々にちょっと汗をかいていただいて、いろいろいただいた意見も含めて具体的なものをつくっていただけるといいなと思いました。

不十分な進行でございましたが、こうやって形になったことはとても良かったなと思っております。

1年5か月、ありがとうございました。

私の感想としては以上です。ありがとうございました。（拍手）

それでは、次第でいきますと5番目で教育委員会挨拶ということで、部長は委員の一人でもありましたが、受け取っていただいたということで、ちょっとご挨拶をいただきたいと思います。

○委員 教育長不在の中、また職務代理が今日は都合が悪かったものですから、代わりに教育部長として私が受け取らせていただきました。

1年5か月、10回に及ぶ審議会でご議論いただきまして、本当にありがとうございます。メンバーを見ましても、橋本会長はじめ奈須副会長、学識経験者、学校関係者、そしてPTAの代表、開かれた学校づくり協議会、青少協、そして公募委員の方と、これ以上ないメンバーで議論できたんじゃないかなと思っております。

また、策定過程においても、私はここに異動してくる前は企画調整課というところで市の総合計画をつくるような部署にいたんですけれども、そのプロセスはもはや変わらないなということを感じました。徹底した市民参加、意見の聞き方もそうですし、特に子どもの権利条例を持っている本市としては子どもの意見もしっかり聞いた、また、新しい取組としてオンラインのディスカッションをやったという、かなり攻めた形での意見聴取、市民参加の手続が取れたのではないかなと思っております。

今後、この計画については言うまでもなく、教育委員会の責任においてこの中身を実行していくということになろうかと思います。

先ほど、答申は受け取らせていただきましたし、これは今後、教育委員会に報告をし、1月の教育委員会定例会で議論し、2月に決定ということにする予定でございます。

ただ、この間の策定プロセスを振り返ってみても、教育委員とのすり合わせもしっかりしてきたと思っておりますので、これが何か塗り替わるということは考えにくいと思っております。

そういう意味では、ここでほとんど、この内容で本市の学校教育計画ができたと思っております。

実は今日、校長定例会もございまして、その中で、まだ教育委員会として決定はしていないのですが、来年度の教育課程にぜひ反映させてほしいという思いも込めて、校長定例会で中身の説明と教育課程とがどういう関係になるのかというところを資料の中でお示しをさせていただきました。きっと各学校校長先生はじめ、教育課程の中で落とし込まれてくるんじゃないかと期待をしております。

また、教育委員会においても、教育委員会としての教育目標であったり基本方針というものがあるんですが、これは通常、なかなか見直さないものでございます。

ただ、今回のこの学校教育計画を受けて、それも今後修正をかけていこうということで議論をしているという、そういうことでございます。

いずれにしても、この1年5か月、本当に皆様のおかげで我々の今後よりどころとなるこの学校教育計画ができたというところで感謝を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

○橋本会長 それでは6番目、その他に移ります。事務局からご連絡等、よろしくお願いします。

○牛込教育企画課長 最後の連絡になります。3点ございます。

1点目は、本日も議事録を作成をします。最後になりますが、出来次第、皆さんにお送りしますので、確認の上、返信をお願いします。

2点目、今お配りしている、計画のかんたん版につきましては、この後、1月、2月の教育委員会定例会で計画について議論、そして決定をしていきます。決定しましたら、こちらはカラーで印刷をして、4月に子どもたちに配布をするということで予定しております。

そして、3点目。この学校教育計画について、今後、広報する際に審議会委員の皆様の写真も載せて広報したいと思います。今日この会が終わりましたら、この場で集合写真を撮らせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○橋本会長 ありがとうございます。

じゃ、よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして第四期武蔵野市学校教育計画策定審議会を終わりにしたいと思います。1年5か月にわたり大変お疲れさまでした。

事務局の皆さんにも本当にお世話になりました。

以上で終わりにしたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

午後 7時17分閉会